広報展示室 Koho Gallery

第67回

春季特別展

浮世絵名品展 ―川崎・砂子の里資料館所蔵―

浮世絵史上画期的な発明が明和（1764～1772）年間に行われます。従来の浮世絵は墨摺絵、紅絵、紅摺絵程度の印刷技術でしかなかったのですが、明和初年から流行した摺物の交換会で、鈴木春信たちが考案した多色摺版画が配付されます。春信は小柄で細身の清楚な美人様式を完成させ、ぼかし摺り、空摺、地潰しなど様々な技法を考案しました。春信以降は、多くの画派が発生しそれぞれ切磋琢磨し技術やデザインを考案し、美人画、役者絵、名所絵（風景画）等に多くの作品を残し、浮世絵を鑑賞用の商品として価値を高めました。その後浮世絵界は黄金期を迎え東洲斎写楽、喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川広重などを輩出します。

今回紹介する作品は、喜多川歌麿が寛政３年～５年頃に描いています。両国橋西詰から橋を正面に見ています。この作品は二枚で完結しているように見えますが、実は右側に水茶屋と冷水売りが描かれたもう１枚があることが確認されました。橋の袂には五人の美人と赤子を背負った少女がいます。美人は全て７身等で小顔の細身の体、着物の帯は幅広く、髪型は鬢の張った灯籠鬢と島田髷で当時の遊行していたスタイルで描かれています。構図は歌麿には珍しく橋を正面からとらえた奇抜な構図です。ただし遠近法をよく理解していなかった歌麿は橋と人物の遠近感を欠いてしまいました。

この度は、開館10周年を迎える川崎・砂子の里資料館のご厚意により、浮世絵の初期から末期までの肉筆画、版画の名品、優品を紹介します。

江戸時代の鎖国で育んだ独自の文化は西欧にジャポニズムを生み多大な影響を与えました。その土壌となった浮世絵の世界を概観するまたとない機会です。浮世絵から見る江戸の文化や西欧に影響を与えた文化をご堪能下さい。

馬頭広重美術館長　市川信也

【会　　期】　前期：４月22日～５月22日
後期：５月27日～６月26日

【開館時間】　午前９時30分～午後５時まで
（但し、入館は午後４時30分まで）

【休 館 日】　月曜日、祝日の翌日
（但し、４月26日～５月５日は開館）

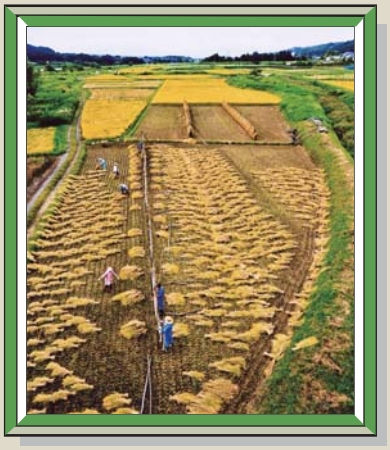
【講 演 会】　５月28日（土）午後１時30分～
演題『浮世絵の魅力』　講師：当館学芸員

【ミュージアムトーク（展示解説）】
４月23日（土）　午後１時30分～

【入 館 料】　大　人　　700円（630円）
高・大学生　400円（360円）

※（ ）は20名以上の団体料金
※70歳以上の高齢者、中学生以下は無料
※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い１名は半額。

“栃木県の美しく豊かな田園風景”を百年後の後世にも継承していくための「とちぎのふるさと田園風景百選」に当町の和見、松野、片平地区の風景が選ばれました。今月は松野・片平地区の写真を掲載します。



松野地区「オダガケを待つ黄金の稲束」
撮影者　富永明さん（宇都宮市）

片平地区「田植えを待つ蕉風の田」
撮影者　石塚英好さん（矢板市）

No.67　平成23年４月10日号　●編集／企画財政課　☎0287-92-1114　Fax0287-92-1316
●発行／那珂川町役場／栃木県那須郡那珂川町馬頭409　URL http://www.town.tochigi-nakagawa.lg.jp

R100 PRINTED WITH SOYINK
この印刷物は古紙配合率100%の再生紙、植物性大豆インキを使用しております。